

地域と連携した学校づくり

～地域に根ざした双方向性のある交流を通して～

越前市北新庄小学校

1 はじめに

本校では、従来から地域と密接に連携した体験活動を行ってきた。今年度は更に連携を深め、体験だけでなく地域の方々との深い人間関係を築き、地域へ貢献する教育に取り組んできた。今後も地域に根ざした双方向性の連携や地域に貢献できる活動を展開して、学校を核とした地域のコミュニティづくりをより一層すすめたい。

2 活動内容

(1) 地域人材を活かして

地域の様々な人々をゲストティーチャーとして招くことで、地域の人々との深い人間関係を築き、豊かな体験を通して地域へ貢献する教育を目指した。

①生活科での取り組み（1、2年生）

「昔遊びをやってみよう」「野菜を育てよう」では、地域の人たちに昔遊びや野菜の植え方、育て方を教えてもらった。「町たんけん」では、地域の施設や神社、店などをボランティアの方と一緒に巡り、お話を聞くことによって、校区について知識理解を深めることができた。



②総合的な学習での取り組み（3～6年生）

3年生では、地元の農家や「ロハス越前」の協力のもと、地元の畑で大豆の栽培をした。国語との関連ももたせ、種まきから収穫、大豆の加工まで行い、農家の方の苦労や喜び、大豆がみそや豆腐、きなこなどに姿を変えていく過程を学習することができた。



4年生では北新庄の名産そばを地域の方々の協力のもと、種まき・収穫・そば打ちに取り組んだ。学習後は、お世話になった地域の方に感謝の気持ちを伝えたり、わかったことをまとめたりして、地場産業への理解を深めてきた。また、そば愛好会の方々が、地域の活性化のために考えていることをインタビューすることで、南越特別支援学校との交流で、自分たちに何ができるかを考えたり、生活の中にどのようなインクルーシブやユニバーサルデザインの工夫があるか調べたりした。



5年生は米作りを体験した。農家の方のお話から、米作りの工夫や苦勞、現状を知ることができた。作った米は、地区文化祭で地域の人に販売することで発信する力を身につけ、地域の人々とのつながりも深められた。



6年生は地元の偉人であり世界的な鉱物学者の「市川新松」について学習し、彼の夢を持ち続け努力を続ける生き方について学び、将来の自分の生き方について考えを深めてきた。また、地元産業等の調べ学習をし、それをパンフレットにまとめた。できあがったパンフレットは、観光協会に置いてもらい、ふるさとの良さを他市や他県の人にPRすることができた。

③フェンシング見延選手を招いて（全校）

ロンドン五輪に出場できなかった悔しさをバネに猛練習し、リオ五輪入賞やワールドカップ優勝をつかみ取ったこと、仲間や家族を大切にして、応援したくなる人になってほしいこと、夢を追う大切さについて講演してもらった。各学年の代表の児童と対戦してもらい、子ども達も目を輝かせていた。



(2) 変わりゆく北新庄地区について

今年度、縦割り班活動で、学校周辺のクリーンキャンペーンに取り組んだ。その際、新幹線の工事現場近くまで行き、そこで働いている方に、工事の内容や北新庄地区がどのように変貌をしていくか等の話を聞くことができた。これからの北新庄地区を考えるよい機会になった。



3 成果と課題

様々な体験を通して、児童は地域の方々との交流を深めることができた。活動前に、経験豊かな自治振興会の方や地元の協力者との十分な打ち合わせを行い、児童に体験学習のめあてをしっかりとたせられたこと、活動後には、個人やグループでまとめて友達や地域の方に発表したり掲示したりできたことは大変有意義であった。しかし、限られた時数の中で取り組むためには、総合的な学習の年間計画の見直しや行事の精選、統合が必要である。